|  |
| --- |
| 全日中「北海道大会」第６分科会「生徒指導」 |

1. 研究題

自他を敬愛し他者と協働しながら自己指導能力を育成する生徒指導の充実

1. テーマ

学校･家庭･関係機関と連携した生徒指導の充実

1. 発表者

山梨県甲府市立富竹中学校長　菅谷　　信

１　はじめに

　学校では、２年前から感染症対策の観点から人との関わりが制限される中、保護者、地域、諸機関との連携の仕方も変化せざるを得なかった。今後も「新しい生活様式」の継続が予測されるだけでなく、AIの発展等による技術革新の動きが一段と進むなど、子どもたちの未来には不確な要素が多い。未来を力強く生きていくことのできる子どもたちを育てていくことが、現在の学校の果たすべき大きな使命である。本研究は、校長が学校経営ビジョンを持って、教育理念や教育方針の下に教育活動に取り組んだ結果、学校、教職員、子供がどのように変容し、保護者、地域社会にどのような影響を与えたかという視点に立って推進していく。

２　研究の概要

研究のねらい

1. 学校の特色・生徒指導上の課題における実態調査を行う。
2. 生徒指導における各校の状況を把握し校長が取り組んでいる内容を整理する。
3. 具体的な事例をもとに、効果的な取組を整

　　理し、成果や課題を明らかにする。

３　調査項目及び回答の概要と考察

1. 生徒指導上の課題

・生徒の社会的未発達が顕著である。

・ゲームに対する依存的生活が目立っている。

・生徒の状況変化対応力が低下している。

・若手教員の生徒指導対応力に課題がある。

1. 学校・地域の特色、連携できる機関

・生徒指導の際に連携できる機関として子育て支援課、児童相談所、警察等が挙げられる。

・職員異動により連携が途切れないよう複数体制でネットワークを構築する必要がある。

(3)学校長としての方針

・若手教員の育成に向けOJTの推進やICTの活用力を生かし若手教員が生き生きと力を発揮できる職場づくりに取り組んでいる。

・教職員に対する意図的な働きかけを行ってい

くことが校長の大きな役割である。

(4)どのように取り組むか

・小学校との連携、講演会、公的機関との連携な

　ど、今までのノウハウを効果的に生かそうとし

　ている。また、社会資源を開拓する姿勢も伺え

　る。

・生徒会による学習規律の確立を目指す活動やノーメディアDayなどに取り組んでいる。

(5)家庭・地域の連携を含むICT活用等の活動

・保護者通知等の配布や回答や回収の９割をICT

　化し負担軽減している学校があった。

・保護者・地域の人にICTを通して学校の様子　を知ってもらおうとする学校が多くあった。

５　具体的な事例からの考察

・コロナ禍において予想以上の喪失感があった。

・ICTを活用した間接的な連携ができている。

・若手教員の育成が必要である。

６　成果と課題

(1)成果

・家庭、地域との連携を図るために工夫を行っ

ていることを知ることができた。

・ICTを用いた様々な工夫が顕著であった。

・「積極的で共感的な生徒指導の推進」を掲げ、生徒の自己肯定感を高めるために教師と生徒の信頼関係の構築と家庭の理解と協力に支えられた積極的、共感的な生徒指導の推進をしている。

(2)課題

・外部機関との連携が不十分である。

・若手教員を生かしていく学校経営の推進が必

要である。

７　指導・講評

・生徒指導の研究や課題に対して校長会で組織

　的に実践できていることは素晴らしい。連携を着実に実践し、社会に開かれた生徒指導を推進してほしい。

・校長は生徒指導ビジョンを学校内外に示し理

　解・協力を得ることが大切である。

報告者：砂賀正史（八潮市立潮止中学校）